

別紙-1 (見学会位置図)



- ・見学会は、堤防工事※の現場内にて行います。
 - ・三峰川橋 南岸 上流の現場出入口より現場内通路にて見学会駐車場へお越し下さい。
- ※「平成28年度三峰川貝沼護岸工事」
伊那市富県北新地先、桜井地先



別紙-2

建設系学科高校生現場見学会概要

日 時 平成29年1月25日(水) 13:15~14:45

場 所 平成28年度三峰川貝沼護岸工事現場内(伊那市富県)

対 象 者 上伊那農業高等学校 緑地創造科 環境エンジニアコース 2年生 21名

協 力 池田建設(株)【伊那市】
(株)シーティーエス【上田市】、福井コンピューター(株)【福井県坂井市】

項目	時間	概要
開会	13:15	
概要説明	13:15~13:30	<ul style="list-style-type: none"> ・堤防等工事内容について ・建設現場の生産性向上の取り組み「i-Construction」について ・「i-Construction」に基づき今年実施した取り組み「ICT土工」について
見学・体験	13:30~14:45	<p>3班(7人/班)に分かれてローテーションで見学、体験 ※1コーナー25分</p> <p>①測量・計測</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レーザースキャナー計測の概要について ・UAV(ドローン)計測の概要について ・プリズムを使った測量と、ノンプリによる測量について ・MDTSを用いたワンマン測量(座標観測と逆打ち)を実体験 <p>②情報化施工</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バックホウを用いたマシンガイダンスについて ・ブルドーザーを用いたマシンガイダンスについて ・転圧ローラーを用いた締固め管理について <p>③3Dデータ等を用いた工事説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3D計測データとその活用について ・3Dデータを用いた現場シミュレーションについて
閉会	14:45	

1 i-Construction とは？

今後、我が国において生産年齢人口が減少することが予想されている中、建設分野において、生産性向上は避けられない課題である。

建設現場における一人一人の生産性を向上させ、企業の経営環境を改善し、建設現場に携わる人の賃金の水準の向上を図るとともに安全性の確保を推進する。

Oi-Construction の目指すもの

・一人一人の生産性を向上させ、企業の経営環境を改善

- ・ 工事完成時期が集中しないよう施工時期の平準化
- ・ 建設ICTによる省力化
- ・ 建設ICTに関する企業の設備投資に対する支援(新たな積算基準の策定) 等

・建設現場に携わる人の賃金の水準の向上を図るなど魅力ある建設現場に

- ・ 公共の測量、設計、工事に関する積算の人件費を4年連続で引き上げ (H24~27：測量約25%、設計約15%、工事約35%) 等

・死亡事故ゼロを目指し、安全性が飛躍的に向上

- ・ 事故発生要因の作業を減少させる 等
 - * ICT建設機械の活用により丁張り等の建設機械周りの作業が減少する
 - * 施工時期の平準化により繁忙期における工事の輻輳等が軽減される
 - * コンクリートエの規格標準化により現場作業が工場製作に変わることによる高所作業が減少する

・建設現場の労働条件改善
 ・施工方法の改善
 ・建設業経営の改善
 → これらをソフト・ハード両対策で推進

※生産性向上とは？

これまでより少ない人数、少ない工事日数で、同じ工事量の実施を実現することを「生産性向上」と考えている。

○省人化：ICTの導入により、中長期的に予測される技能労働者の減少を補完

○工事日数削減（休日拡大）：

現場作業の高度化・効率化により、工事日数を短縮し、休日を拡大

・建設就業者ピーク時より27%減
 建設就業者の約3割が55歳以上
 建設就業者の29歳以下は約1割
 * 建設業の生産性は対米国比8割程
 * 生産性向上余地があり、チャンス！

・ICTにより生産性向上
 * 盛土等の土工事生産性2倍 等
 ・建設業の約7割の人が4週4休で働いている
 * 国の工事では週休2日の確保推進

※i-Constructin の「i」とは？

ICT:Information and Communication Technology や、IoT:Internet of Things、「I」から来ていると思われる。

2 「i-Construction」に基づき今年実施している現場での取り組み(ICT土工)

国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ICTの全面的活用を図るため、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用し、盛土などの土工事部分を施行する。

OICT 活用工事とは、下記建設生産プロセスにおいて ICT を全面的に活用する工事

- ① 3次元起工測量
- ② 3次元設計データ作成
- ③ ICT建設機械による施工
- ④ 3次元出来形管理等の施工管理
- ⑤ 3次元データの納品

※ ICTとは、Information and Communication Technology(インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー)の略で、日本ではすでに一般的となったIT = 情報技術の概念をさらに一歩進め、ITに通信コミュニケーションの重要性を加味した言葉【情報通信技術】です。

建設工事の設計、施工、監督等の工程において、GPS、無線LANなどの情報通信技術を使って各工程から得られる電子情報を活用して高効率・高精度の施工を行い、そして施工工程で得られた電子情報を他の工程に使うことで、工程全体の生産性の向上や品質の確保等を図るシステムを建設ICTとしています。



このプレスリリースは、今回の建設系学科高校生の現場見学会について平成28年12月22日に長野県より発表された資料です。

長野県(伊那建設事務所)プレスリリース 平成28年(2016年)12月22日

建設系学科高校生を対象に現場見学会を実施します

県建設部では、官民協働による建設産業への理解拡大と次代を担う人材確保に向け、建設系学科高校生等を対象とした就労促進及び若手技術者の育成につなげる取組みを実施しています。

この取組みの一環として、上伊那農業高等学校 緑地創造科の生徒を対象に、上伊那地区における建設工事現場において現場見学会を実施します。

1 日 時

平成29年1月25日(水) 午後1時15分から2時45分まで

2 見学現場

三峰川河川工事現場(伊那市富県(三峰川橋南岸))(国土交通省発注)

3 対象者

上伊那農業高等学校 緑地創造科 環境エンジニアコース 2年生 21名

4 その他

この実習は、長野県建設業協会伊那支部との共催により実施します。

しあわせ信州創造プラン(長野県総合5か年計画)推進中

オール信州で取り組む
地消○地産

「地域の消費」と「地域の生産」を結んで
地域内経済循環の輪を広げます。

伊那建設事務所 整備課 整備第二係
(課長)島崎 政久 (担当)有賀 寛
電 話 : 0265-76-6852(直通)
0265-78-2111(代表) 内線 2443
F A X : 0265-76-6850
E-mail : inaken-seibi@pref.nagano.lg.jp